令和元年度学校評価のまとめ(概要版)

結論

今年度は，学校長より「特別支援教育の充実に向けた体制作り」が、学校経営方針の指導重点として明確に示され、校内研究ともリンクしながら、全職員の共通課題として取り組んできた。このことは、教職員にとっても目標が明確となり、焦点化された教育活動が可能となったものと捉えられる。別紙「昨年度の自己評価の数値集計表との年間比較」からは、指導重点に対する一定の成果が見られた。

総括的な評価項目（回答Ａ）として，「校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか」については，全員が「取り組んでいる（「ある程度取り組んでいる）も含む)」と評価した。同項目の「あなたは取り組んでいるか」（回答Ｂ）の回答値も同様に全員が「取り組んでいる（「ある程度取り組んでいる）も含む)」と評価した。また、ほとんどの項目において、昨年度より回答平均値が向上したことからも，本年度，個々の教員の充実した指導と、学校組織の活性化が図られたことが判断できる。

以下に、指導重点ごと明らかとなった、成果と改善すべき課題について示す。

指導重点（１）学ぶ意欲を高める授業づくりによる確かな学力の向上

〇自主学習ノートを毎日提出できる習慣ができつつある。今後は内容を充実させる改善へ進める。授業改善については、「見通し」を持たせる指導改善が図られた反面、「振り返り」については顕著な改善が見られなかったため具体的な取り組みが必要となる。

指導重点（２）自己指導能力を育む生徒指導と心の教育の充実

〇ほとんどの職員が授業以外の場面でも道徳的指導を推進している。反面、２割程度の生徒が学校生活に対する満足感が得られていない現状がある。指導方針を見直し、生徒理解・個に応じた指導の充実を通して改善を図る必要がある。

指導重点（３）「自他を守り，命を大切にする健康・安全教育の推進」

〇複数回の予告無し避難訓練の実施により、緊急時の避難方法に関する課題が明らかとなり、防災意識の向上を図ることができた。また、外部講師から、日常からの備えの重要性が指摘された。今後、具体的な方策を持って取り組む必要がある。

指導重点（４）「自立を育む特別支援教育の体制づくり」

〇特別支援教育に関する学習会や実践的な研究を進めたことにより、教員の専門性の向上と組織的な指導体制を構築することができた。また、通常学級の学習課題のある生徒に対して，診断的に看取り情報交換が増え、習熟度学習などのきめ細かな対応ができるようになってきた。一方で個別の支援計画・指導計画に基づ指導と評価については，まだ改善の余地がある。

指導重点（５）家庭・地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化

〇ＰＴＡ親子ふれあい活動を見直し、保護者がより参加しやすい学校運営が可能となった。中道地区の小中合同研修会等を実施することにより，小中連携が進んだ。このような連携を支える環境整備について対応を進める必要がある。

指導重点（６）その他（今日的課題への対応）

〇新学習指導要領の全面実施を目前に控え、外部講師を招いての学習会や環流報告等、研究主任を中心に計画的に実施された。次年度以降、授業研究を柱としたより実践的な研究へと発展的に継続し、各教員の資質・能力の向上、学校全体の教育の質的向上につながるよう工夫したい。

別紙

今後の学校運営の方向性について

〇家庭学習の確実な定着と、質的向上を図る取組をする。
・家庭学習が習慣化していない生徒について，担任は保護者と連携する中で、家庭学習の内容指定をするなど具体化し習慣化に努める。
・学級担任の点検方法の簡略化，班活動などの取組を活用して，相互評価するなど生徒集団の世論を形成させる。

〇新学習指導要領への移行、全面実施を視野に入れ、授業研究を中心とした「主体的・対話的で深い学び」づくりに向けた実践的な授業改善を進める。
・授業開始時に「今日のめあて」を提示し学習目標を明確にすることに加え、学習の過程を板書等により可視化し，その板書を基に，授業の振り返りにおいて，学習目標に対する自己評価や，学習内容の確認方法の工夫（小テスト等）を推進する。（やまなしスタンダード・甲府スタイルの推進）
・特別な支援を必要とする生徒とってもわかりやすい指示の出し方、場・時間の構造化等について工夫する。（授業のユニバーサルデザイン化）

〇家庭・地域社会・学区内小学校との連携を一層強化する。
・小学校との連携については，夏季休業中の小中合同研究会において３校で話し合われた事項を踏まえ，授業規律や生徒指導上の確認事項などを意識して取り組んでいく。
・家庭学習の質的向上、習慣化。（前載）

〇自立を育む特別支援教育の体制づくりを一層充実させる。
・校内委員会・ケース会議を臨機応変に行うことにより、個別の支援計画・指導計画の共有と、合理的配慮等の見直しを継続的に行う。その上で、個々の生徒の教育的なニーズを可能な限り把握し、個に応じたきめ細かな指導を推進する。